

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2018 大月 敏雄

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限って、特に記載のない限り、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下で利用することができます。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



町をすみこなす

超高齢社会の居場所づくり

大月 敏雄

東京大学

建築学専攻／高齢社会総合研究機構／復興デザイン研究体

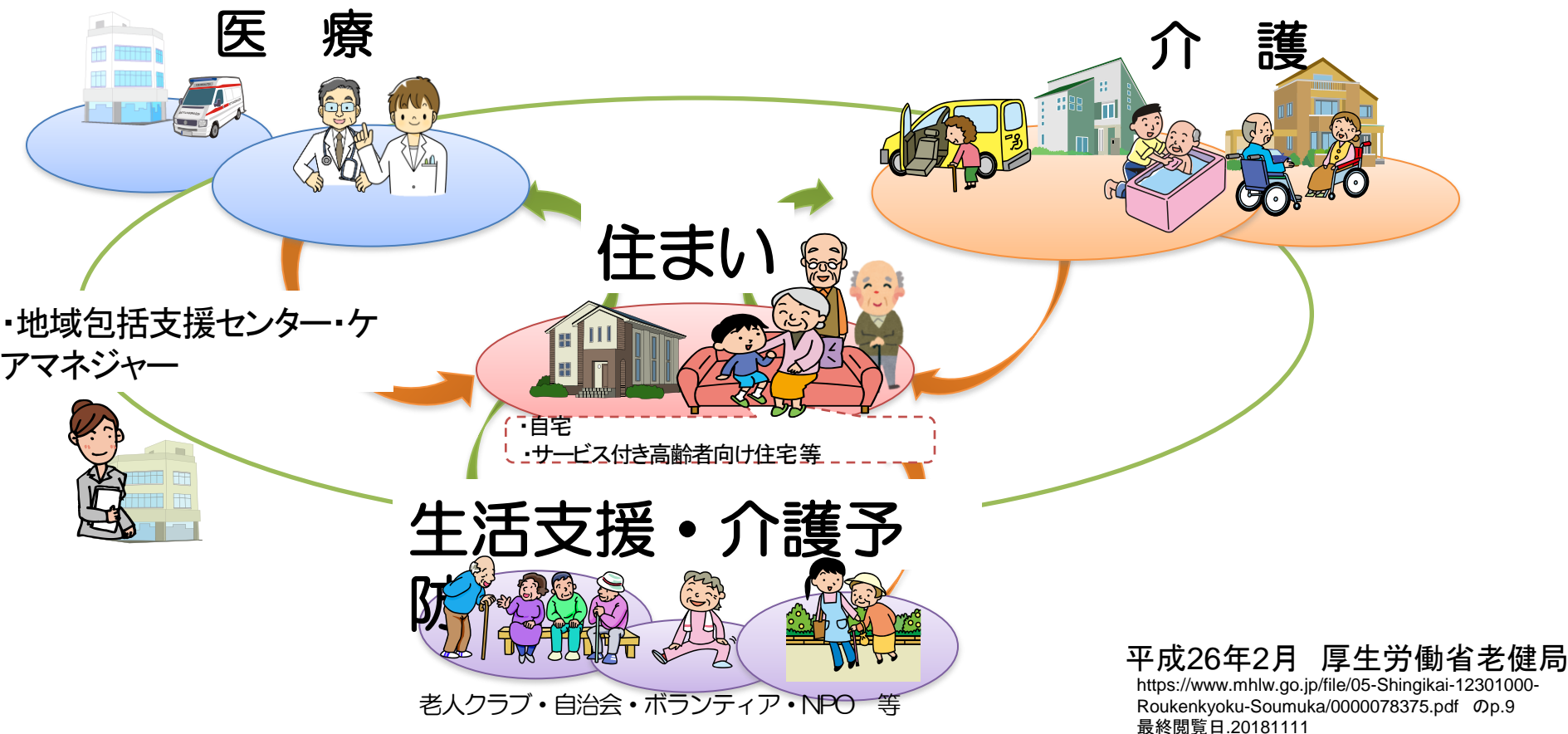
※参考文献:

大月敏雄『町をすみこなす』岩波新書2017年

大月敏雄『住まいと町とコミュニティ』王国社2017年

大月敏雄+住宅生産振興財団『住宅地のマネジメント』建築資料研究社2018年5月発刊予定

【目的】 地域包括ケアシステムを完成する



平成26年2月 厚生労働省老健局
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12301000-Roukenkyoku-Soumuka/0000078375.pdf> のp.9
最終閲覧日.20181111

- 医療・看護・介護の地域多職種連携として始まった
- **住み慣れた**地域で能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制
- おおむね30分以内にサービス提供される日常生活圏域(具体的に中学校区)を単位として想定
- 真中にある「住まい」の議論は、ほぼない

【現状】「住宅」の認識の限界

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

1973年1月3日朝刊15頁 朝日新聞掲載の上田篤作現代住宅双六

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

2007年2月25日 日経新聞掲載の上田篤作の新現代住宅双六

現代住宅双六(上田篤)1973年朝日新聞

- ・各コマは日本の住宅政策・ハウジングの歴史
- ・「上り」は、「庭つき郊外一戸建て住宅」

新・住宅双六(上田篤)2007年日本経済新聞

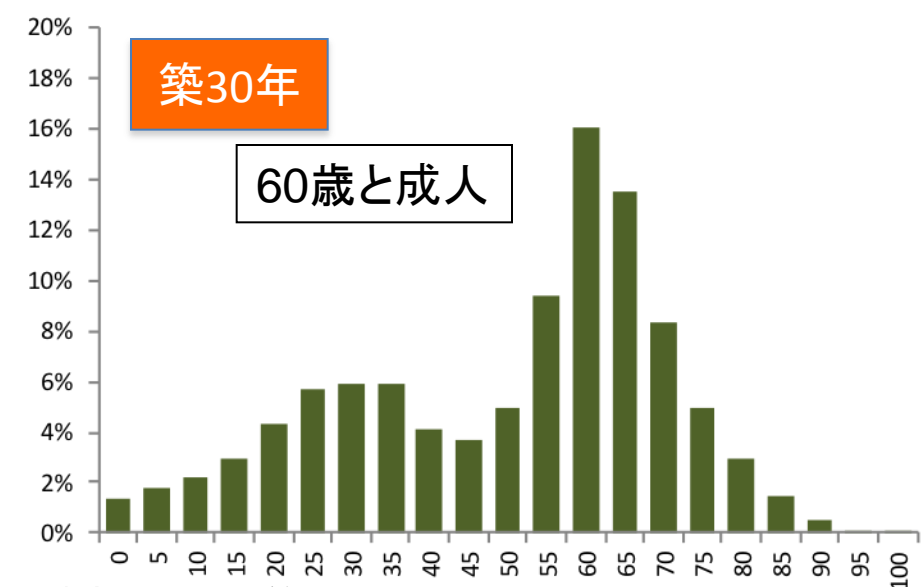
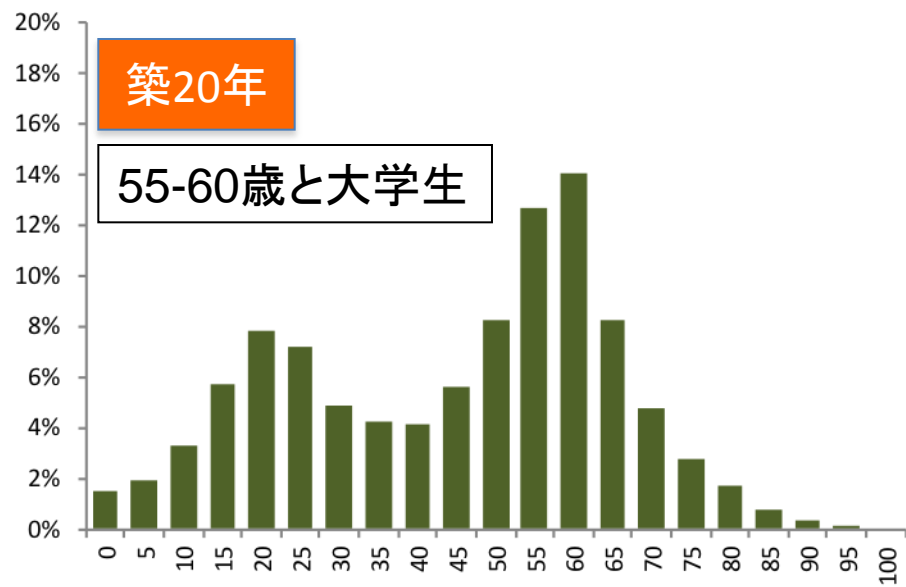
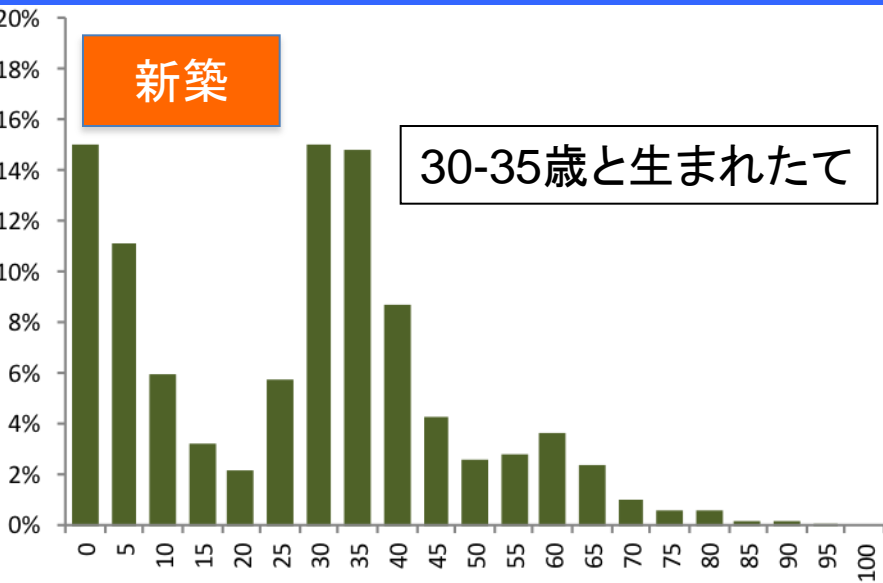
- ・34年経ち、「余生」が長くなったことを反映
- ・一つではない、多様な「上り」を想定(6つ)

ただし、

- ・コマとコマの間の白い溝(引越し)がデザインされていない
- ・コマと「地域」が関係づけられていない／どこに引越すかは示されない

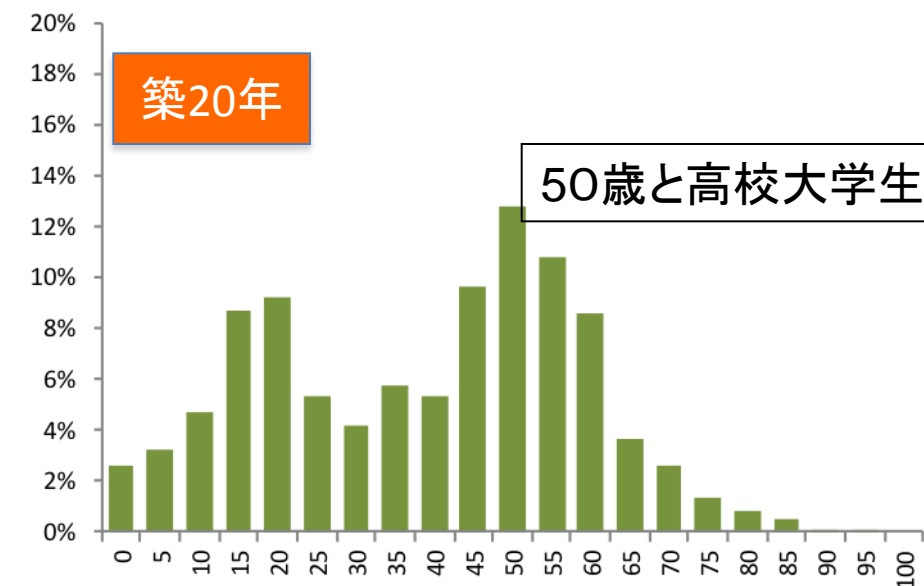
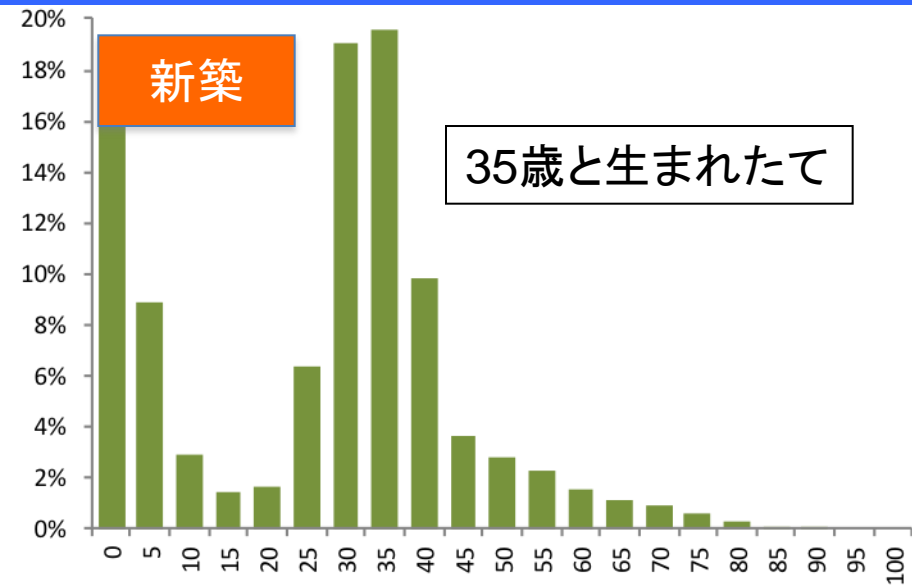
【視点1】 時間：人生のスパンで住宅を考える

住宅種別によって住む人が変わる(分譲戸建)



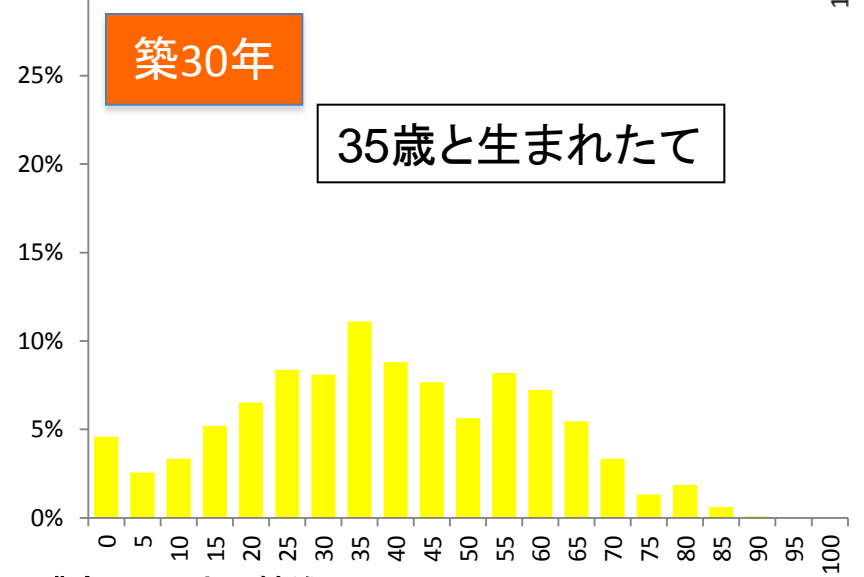
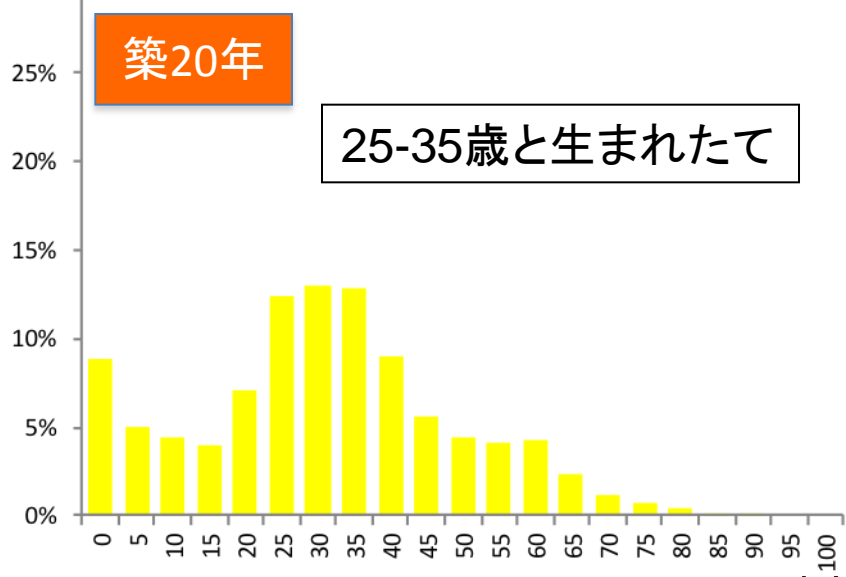
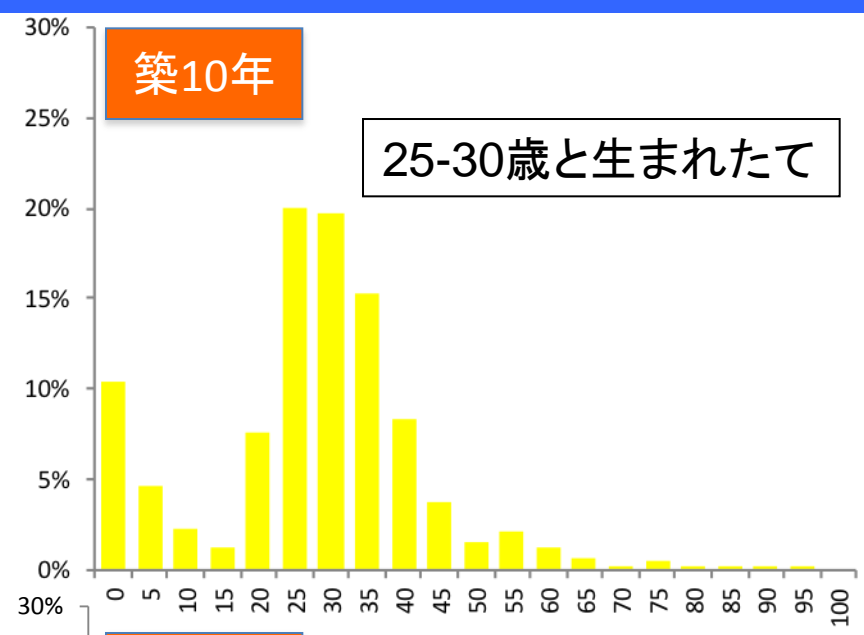
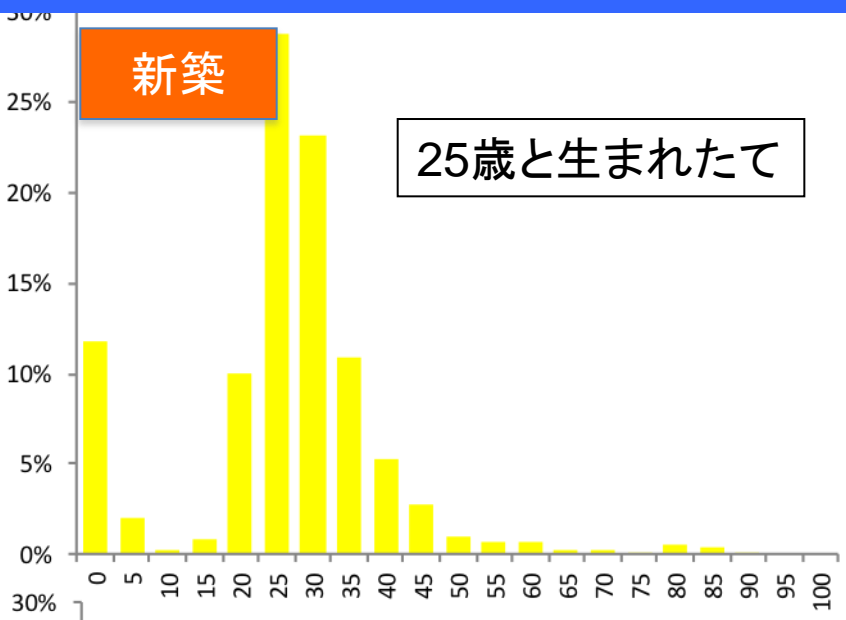
【視点1】 時間：人生のスパンで住宅を考える

住宅種別によって住む人が変わる(分譲共同)



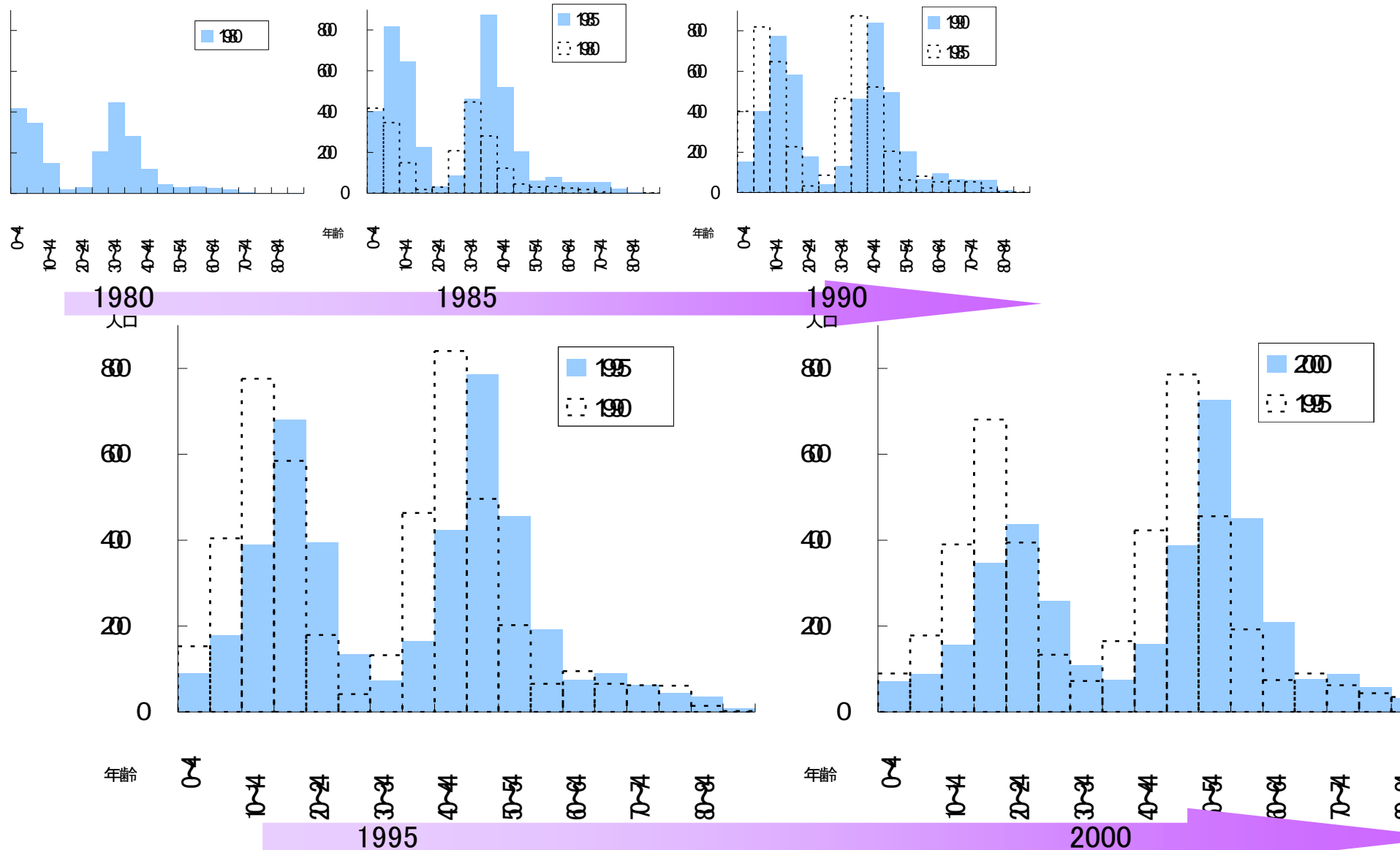
【視点1】 時間：人生のスパンで住宅を考える

住宅種別によって住む人が変わる(賃貸共同)



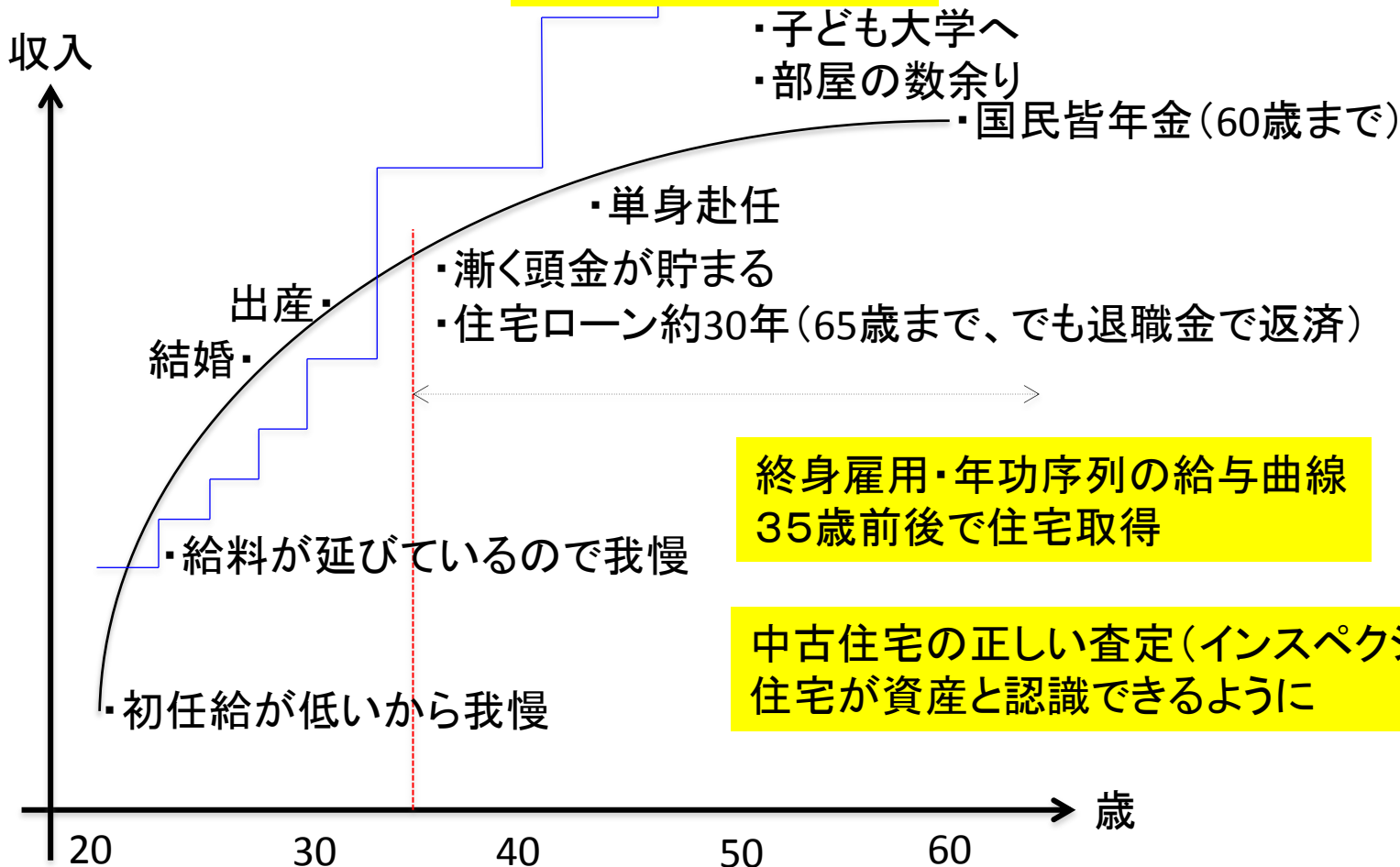
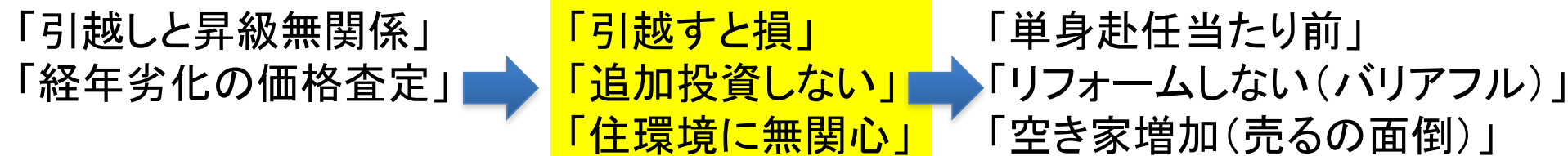
【視点1】 時間:人生のスパンで住宅を考える

急激に高齢化するニュータウン(都市部の社会不安原因)



【視点1】 時間：人生のスパンで住宅を考える

「35歳と生まれたて」が分譲系に住む → 不良空き家が増える



【視点2】 家族：十家族十色の暮らし方

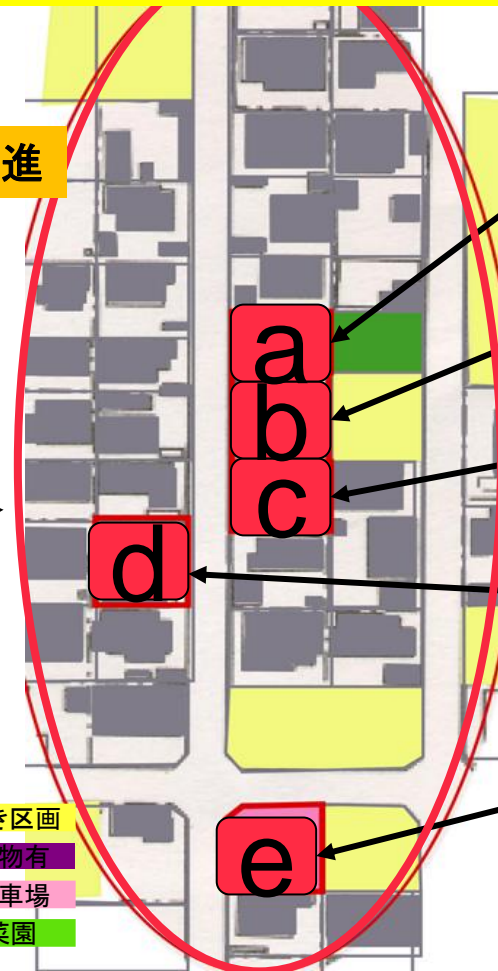
脱【1世帯：1住宅：1敷地】

- 空き地5割の関東近県団地
- 2世帯(1家族)：2建物(1住宅1商店1併用住宅)：5敷地
- 計画されなかった【豊かさ】

2つ目、3つ目の住宅取得促進



- 凡例
- 空き区画
 - 建物有
 - 駐車場
 - 菜園



a 昭和47年入居

b 商店用地購入

c 菜園用地購入

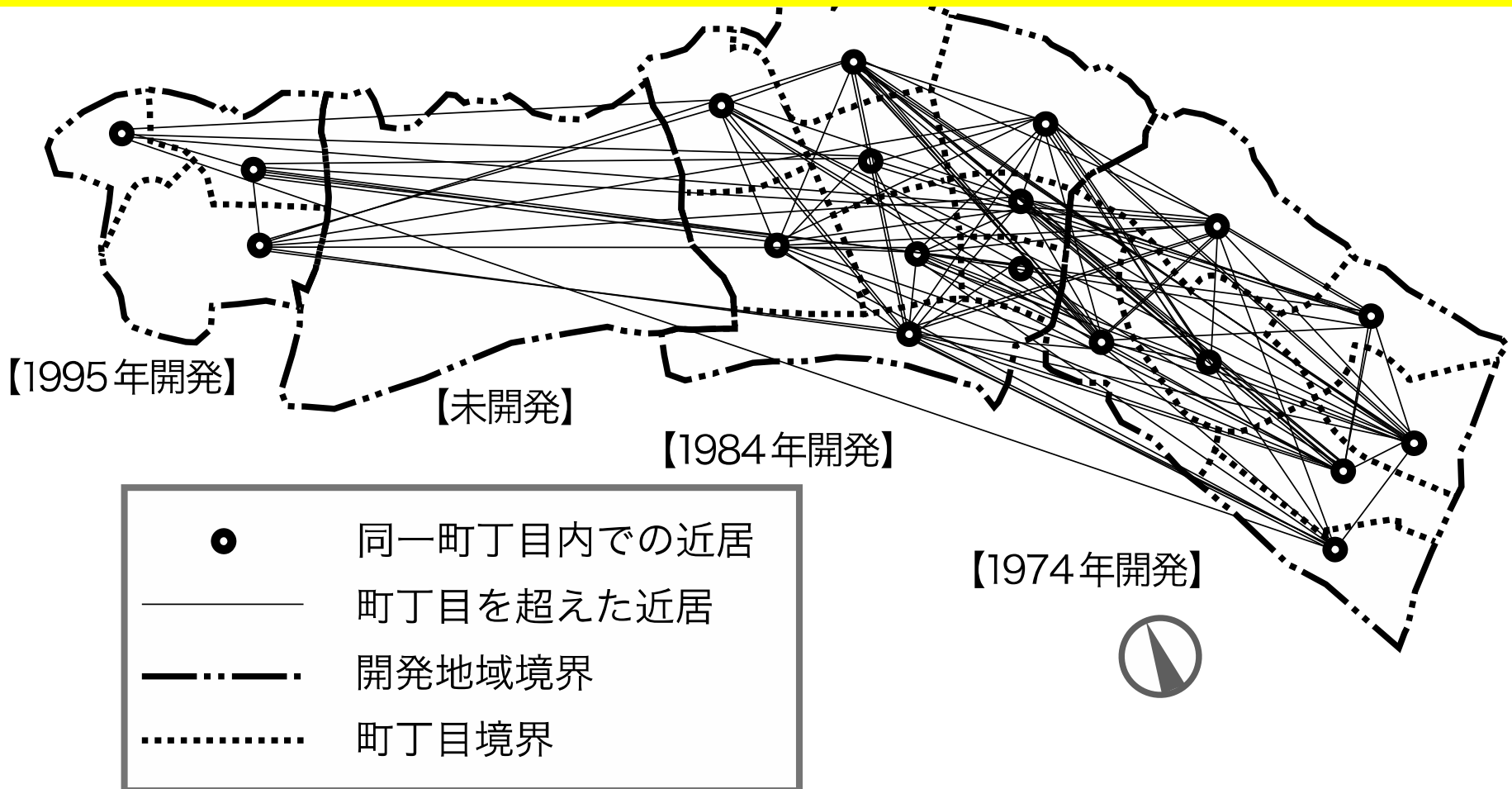
d 次男自宅兼
鍼灸院用地購入

e 商店・鍼灸院用
駐車場用地購入

【視点2】 家族：十家族十色の暮らし方

ざっと1~3割の世帯で【近居】を行っている

- 中部地方の団地における、団地内近居
- ニュータウンの場合、親の「孫育て」を期待したUターン近居が多い。
- それが、ニュータウンの「蘇り」の一因ともなっている



【視点3】 引越し:「Gターン」がつくる生活の薬箱

地域内の小さな引越し(Gターン)

「昭和の町」は、同じような戸建住宅とセンターから成り立つ

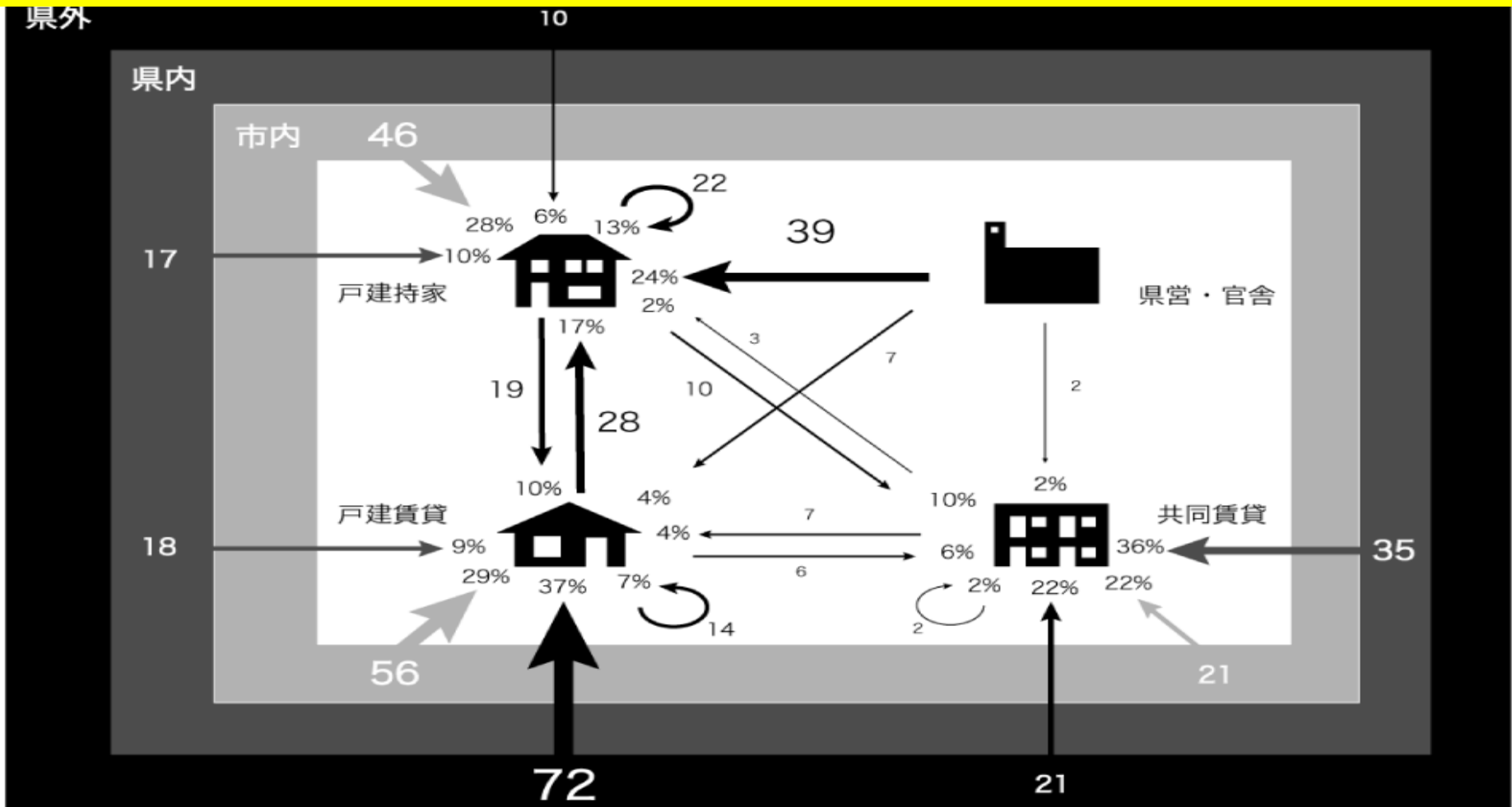


センターに近づくために100m、200mを引越す(生活圏域の縮小)
家の前に「段差」があれば「-200万円」

【視点3】 引越し:「Gターン」がつくる生活の薬箱

ニュータウンを蘇らせる【近居】に必要な住宅の【多様性】

- 【戸建賃貸】【賃貸アパート】が住宅の多様性を生み、多様なニーズに応える
- Uターン組:当初は計画されていない【賃貸戸建】がないとUターンできない
- 片親組:賃貸戸建は無理。賃貸共同があってよかった。今や1/3カップルが離婚。



【視点3】 引越し:「Gターン」がつくる生活の薬箱

自然発生的な「隣の団地」への引越し

地域の中で引越す(Gターン)は、地域の住宅種別の多様性が大事

若者向けのデザイン・値段の団地
【35歳と生まれたて】が入居
25年後
【60歳夫婦】



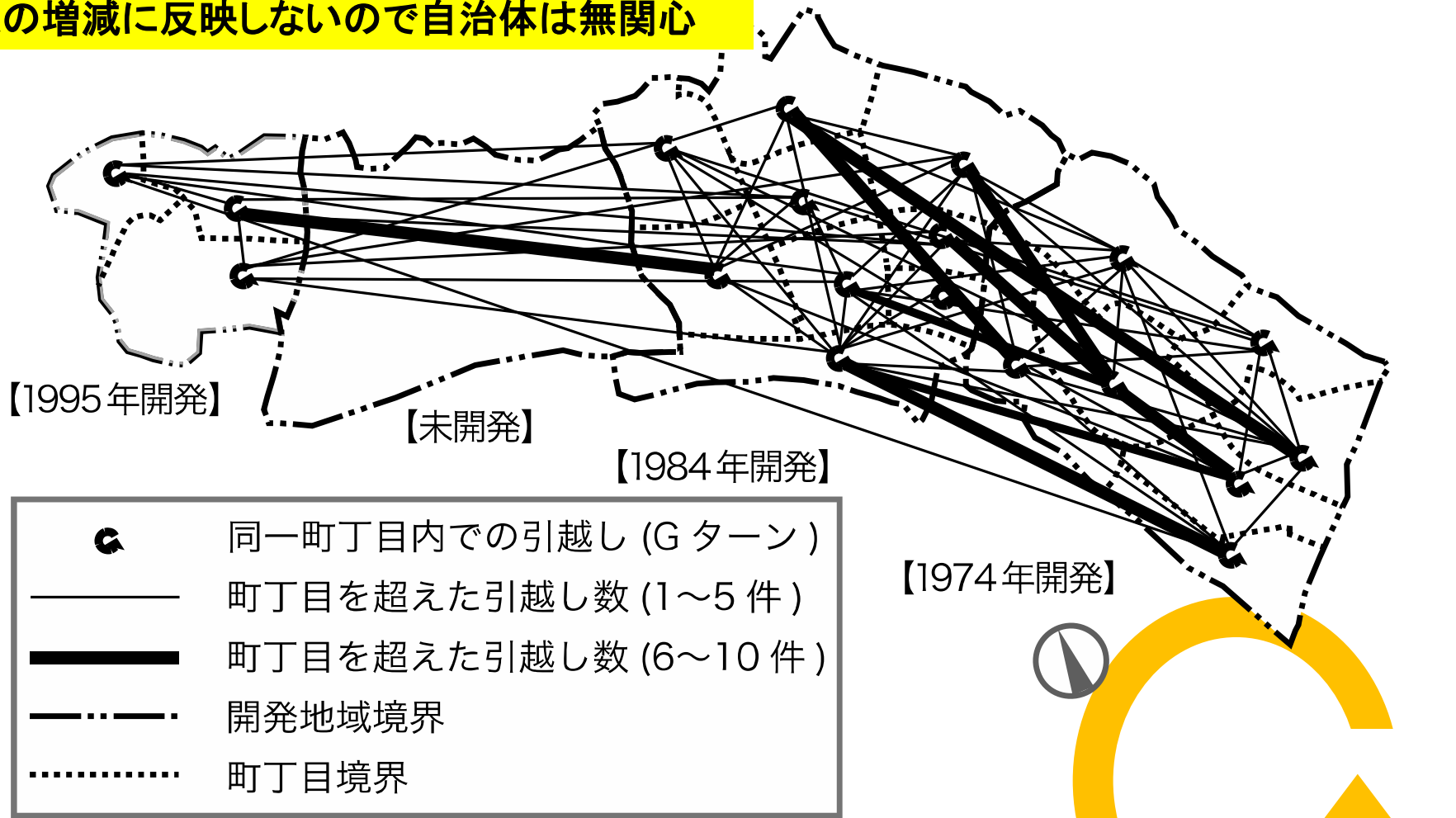
大人のデザインと値段
【60歳の余裕】
25年後
85歳は有料老人ホームに



【視点3】 引越し:「Gターン」がつくる生活の薬箱

地域で住み替える、町の中で地域で引越す人は多い

税収の増減に反映しないので自治体は無関心



3-4 団地内での住み替え

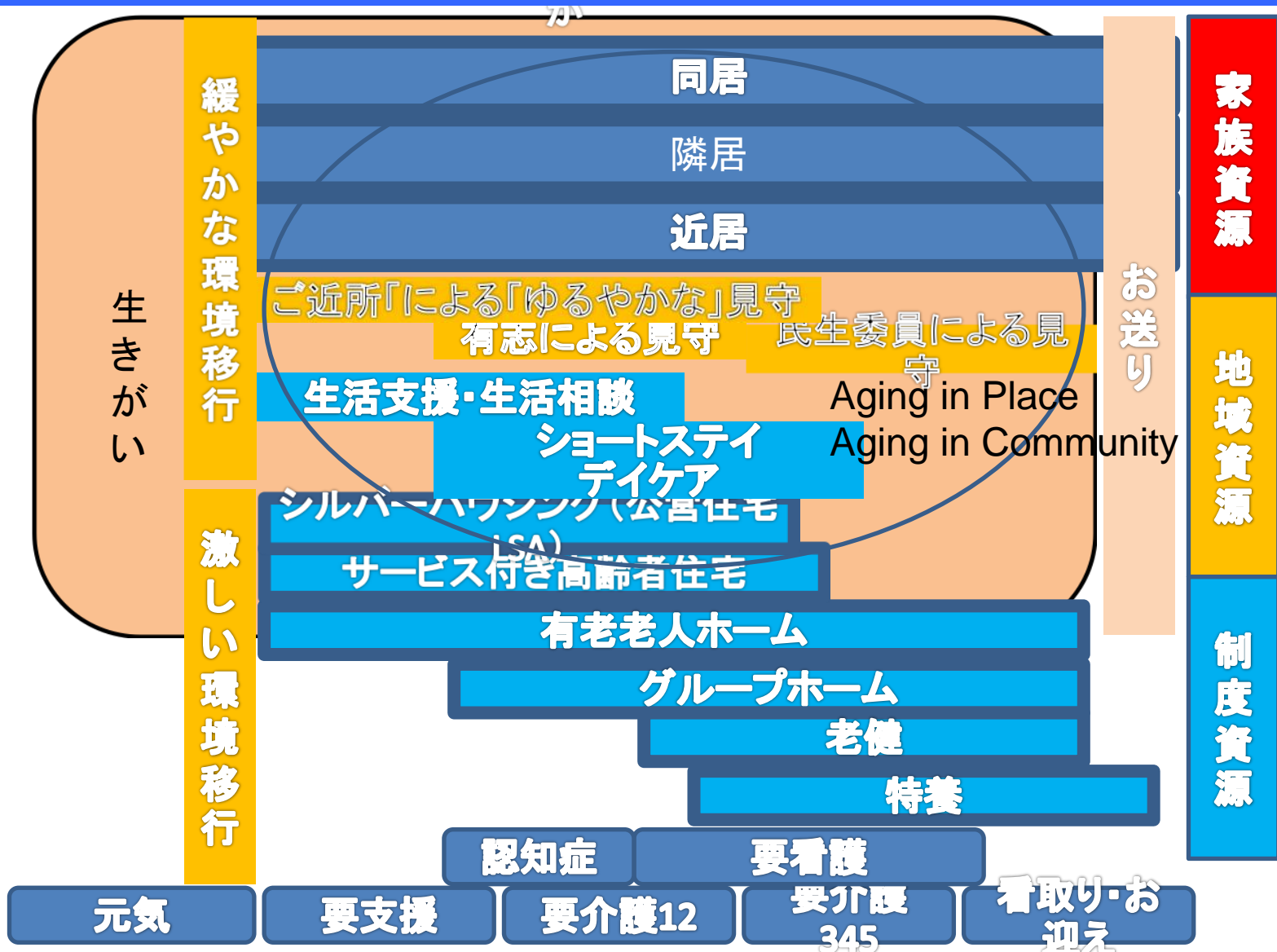
【視点4】 居場所：町のあちこちに主感のある場を 東日本大震災【コミュニティケア型仮設住宅】 ちょっとした工夫でみんなの【居場所】を

テレビ局の【再現取材】取材に応えるためにあわてて集まった女性たち(ここに至るまでがコミュニティ)



【視点4】 居場所：町のあちこちに主感のある場を

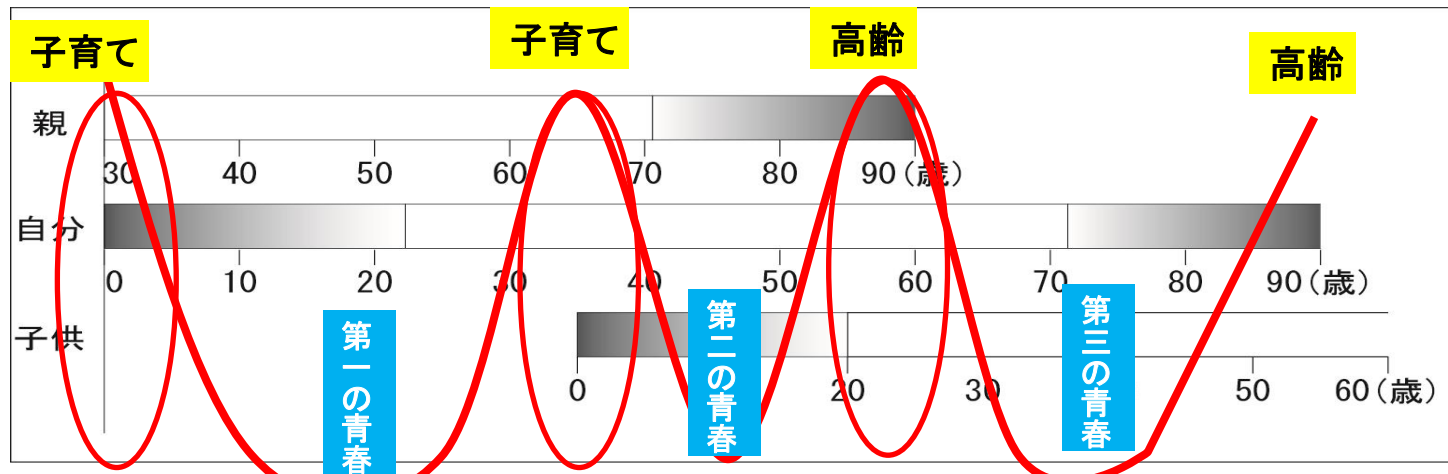
家族資源で制度資源もない人は、地域資源が大事



【視点4】 居場所：町のあちこちに主感のある場を

コミュニティ必要曲線 同じ人でも必要な時と不必要なときが

主感断面できると「必要な人」と「不必要な人」が同時存在



多様な町はホワイトノイズ状態
いつでも、地域では、どっちも大事な人ばかり

【視点5】 町を居場所にするために 居場所で住まいと町をつなぐ

寒い地域のコインランドリーは、一人暮らしの男子高齢者が【自然と、挨拶せざるを得ない】場所となる



【視点5】 居場所：町のあちこちに主感のある場を

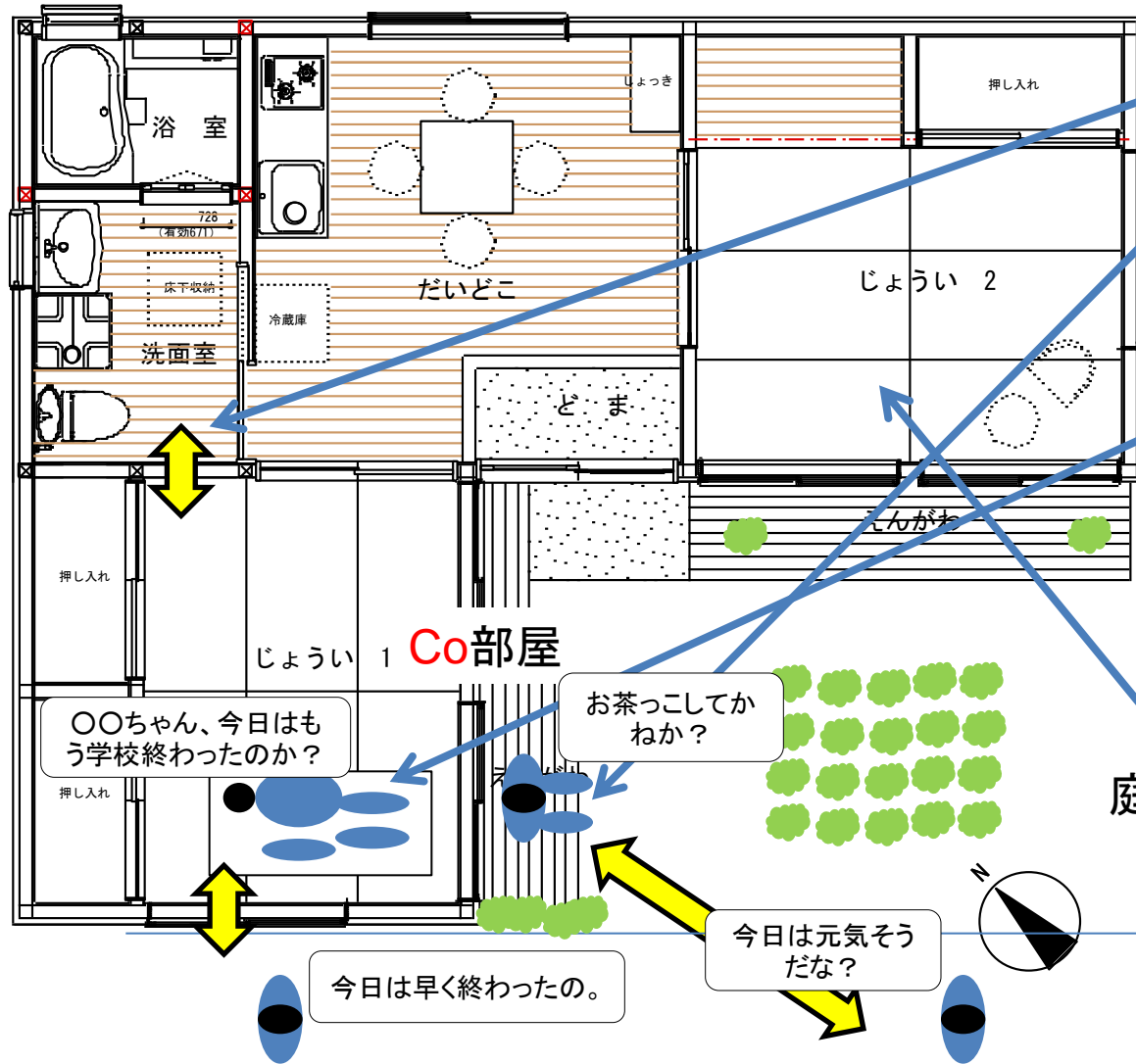
古くからあるまちかどには男子高齢者の居場所が

この場をそのまま「デイケアセンター」と認定したい



町の中の居場所の創出

【視点5】 町を居場所にするために 家の内外に「居場所」となる空間を



・必要に応じて間仕切りが取れる

・(元気な時は)
縁側付き・庭付きで近所と気軽な
コミュニケーション

・(寝たきりになっても)
窓越しから、近所の人とコミュニ
ケーション
タウン・ウォッチャーとして、社会
貢献

庭
・家族を起こさなくても、夜間の定
期訪問、訪問介護・看護ができる

〇〇ちゃん、今日はもう学校終わったのか？

お茶っこしてか
ねか？

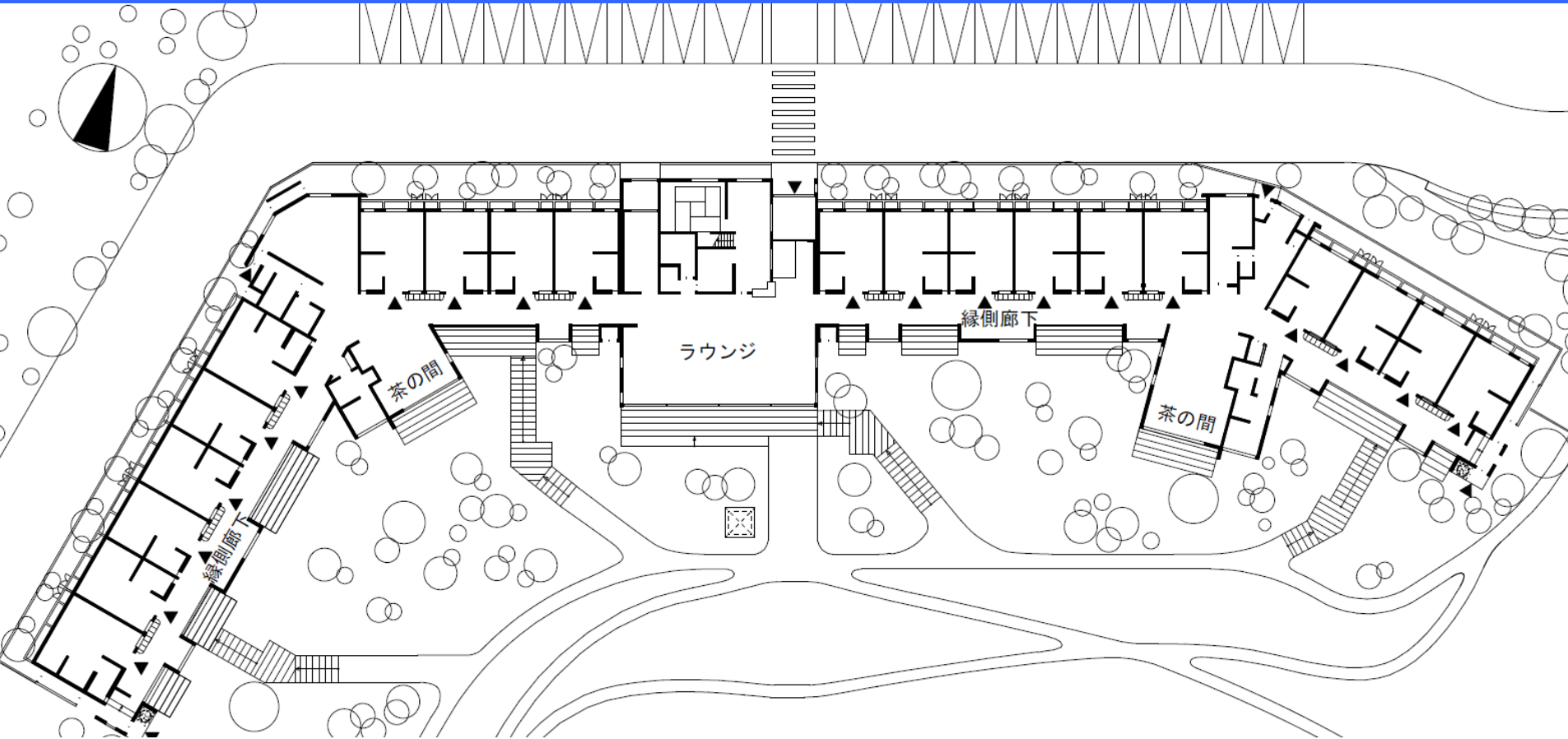
今日は早く終わったの。

今日は元気そう
だな？

こべや(Co部屋)のある住宅

【視点5】 町を居場所にするために

縁側みたいな南側廊下で部屋から高齢者を外へ
1人でも、少人数でも、多人数でも、居場所となりうるサ高住



岩手県陸前高田市 ひだまりの丘 ほっこり家(サービツ好き高齢者向け住宅 20戸)

運営: 社会福祉法人 高寿会

実施設計: 大月研究室+佐藤設計) 2018年6月完成予定

グループワークテーマ

みんなの居場所マトリックス(人 × 場所)
をつくろう